

センター試験の対策学習について

佐藤 誠司

1. 全体的な学習方針

この記事では、センター試験を主な目標とする生徒が得点力を高めるための効率的な学習法について考えてみたいと思います。

英語に限らず、配点比率の高い分野に重点を置くのが受験対策学習の基本です。その観点からセンター試験を分析すると、分野ごとの配点比率はおおよ次のようになります(カッコ内は素点)。

- (A) 読解 = 60% (152 点)
- (B) 文法・語彙 = 14% (34 点)
- (C) 発音 = 6% (14 点)
- (D) リスニング = 20% (50 点)

(B)は筆記試験の第2問A・C、(C)は第1問の配点です(2012年度)。このことから明らかに、センター試験対策で最も大切なのは「読解力」をつけることであり、次いでリスニングの力を養うことだと言えます。今回は、筆記試験の対策を考えます。

2. 文法学習について

筆者の知る限り、現在の高校での受験対策指導は、「文法問題を解く練習」に重点が置かれがちで、結果的に生徒の読解力が十分につかないという面があります。少なくともセンター試験対策に関しては、高3生に「文法問題のドリル学習」はほとんど必要ないと思います。たとえば第2問Aの出題内容は、例年ほぼ次のようになっています。

- (1) 文法の知識を問う問題 = 3～4題
- (2) 語彙の知識を問う問題 = 6～7題

経験的に言えば、(1)は高2生でも正解できる典型的な文法知識が問われており、大半の生徒が失点するのは(2)タイプの問いです。したがって、8割以上の得点を目指すには「単語の意味」「語法」「イディオム」「コロケーション」などの知識を増やす必要はありますが、時制・仮定法・準動詞・関係詞・仮定法などの文法事項に関する1問1答式の問題演習をいくら積んでも、得点力の向上にはあまりつな

がりません。それよりも重要なのは、学んだ文法知識を「英文を読む」という作業にどう応用するかだと思います。

3. 読解学習について(1)

筆者は、英語の受験対策指導で最も大切なことは「読解学習に対する生徒のモチベーションを高め、維持すること」だと思っています。一番いけないのは、単語を覚えたり文法問題を解いたりすることに少しばかりの時間を割くことで「英語を勉強した気になる」ことです。実際の入試では読解力を問う問題の比率が圧倒的に高いので、英文を読むという(生徒にとってはハードルの高い)作業にどれだけ時間をかけるかが勝負の分かれ目になります。

入試、特にセンター試験の読解では、限られた時間内に効率的に読む「速読」の指導も多行われていますが、後に4で述べる理由から、**「精読」**をおろそかにすることはできないと思います。そこで、「精読」学習の素材の選び方が大切になってきます。筆者の場合、1行～数行程度で意味の完結した英文を集め、その中からいくつかの文を適当にピックアップして希望者に配り、個別添削指導を行っていました。選ぶ素材は各人の習熟度によって変えるアラカルト方式です。それらの英文を全訳して提出させ、文構造が理解できていないところを指摘していきます。この指導は、生徒が文法事項を一通り学習し終えていることが前提です。

文法知識を読解に応用する力とは、「英文を見たとき、頭の引き出しの中にある文法知識を正しく適用できる力」だと言えます。次の例は、2012年度センター本試験から、精読の素材として使えそうな文を抜粋したものです。この程度の文を正確に読めるようになることが、当面の目標です。

・ Research shows that the older people become, the less likely they are to delay doing their work until the last minutes.

・Wood from a tree that has just been cut down will shrink considerably over time. This shrinkage is caused by moisture (water) within the wood escaping into the atmosphere.

この指導のポイントは、個々の課題の分量を少なくして、訳すのにあまり多くの時間がかからないようにすることです。生徒は1つの文が訳せれば達成感を持ち、訳せなければ教師の説明を聞いて「1つ知識が増えた」という気になります。いきなり長い文章を与えても、多くの生徒はそれに取り組む時点で高いハードルを越えねばならず、着手する前から読解学習そのものに苦手意識をもちかねません。1つずつ課題をクリアする作業を積み重ねるほうが生徒の心理的な負担が少なく、長続きもします。

4. 読解学習について(2)

試験対策という観点から言えば、本文がほぼ完全に理解できたとしても、設問に正解できるとは限りません。設問の英文の意味を取り違えるケースがあるからです。たとえば2012年度センター本試験の第6問-問1の正解の選択肢は、people will find different tasks pleasingです。「人々はさまざまな仕事を楽しく感じる(どんな仕事を楽しく感じるかは人によって違う)」の意味ですが、このdifferentを「異なる」と解釈して「人々は自分の本務以外の仕事を楽しく感じる」と考えると正解が出せません。このように読解力とは、突き詰めて言えば「個々の言葉の意味を正確に理解する力」であり、それは精読によってしか身につけません。

リスニングは究極の「速読」と言えますが、ここでも精読(的な理解)の重要性は変わりません。2011年度センター本試験のリスニング問題に道案内の会話があり、その中に次の発言が出てきます。

・Walk past the library, and you'll see it right before the hospital.

itは相手が探している場所(市役所)ですが、ポイントはbefore the hospitalです。地図の中から「病院の手前(話し手たちに近いほう)の建物」と「(通りを隔てて)病院に向かい合った建物」のどちらかを選ぶのですが、正解は前者です。ここではbeforeという前置詞の意味を正しくつかむのがポイントです。そのように考えると、リスニング問題

の何割かは、実質的には「耳の力」よりもむしろ「スクリプトを理解する力」、つまり広い意味での読解力を尋ねていると言えます。

5. 単語学習について

たとえば世界最大級のコーパスに基づくCollins Cobuild English Dictionaryでは、収録語の重要度を次のように5段階に分けています(下記以外は無印)。

- ◆◆◆◆◆ : 約 700 語 (like, paper など)
- ◆◆◆◆◇ : 約 1,200 語 (argue, danger など)
- ◆◆◆◇◇ : 約 1,500 語 (compete, illegal など)
- ◆◆◇◇◇ : 約 3,200 語 (accuracy, infant など)
- ◆◇◇◇◇ : 約 8,100 語 (calf, extinct など)

上位3レベルの合計は約3,400語、その次を加えると約6,600語ですが、ざっと見ると◆◆や◆の中にも重要語が混在しています。大学入試では◆◆まで(6,000語程度)の語彙力があれば理想的ですが、センター対策としてはまずその半分程度が目標ラインになるでしょう。2012年度のセンター本試験で出題された「やや難しそうな語」をざっと調べたところ、fatigue, gender, Mediterranean, moisture, shrinkなどは◆◆、humidityは◆でした。

ただし近年のセンター試験では、入試対策の単語集にあまり載っていない語もよく出ています。その理由は、出題の素材が実生活やビジネスなどを反映した内容により強くシフトしているからです。2012年度本試験のin-house(社内の)やgrain(木目)などもその例です。リスニングでも、たとえば2011年度本試験ではwhipped cream(ホイップクリーム)、hay fever(花粉症)、sneeze(くしゃみをする)などが出ています。6~7割程度の得点力をもつ生徒がそこから先へ進むには、語彙力を高めるのが一番の近道です。大学入学後はTOEICやTOEFLの対策も必要ですが、そこで求められる語彙力は大学入試の比ではないことも意識しておくべきでしょう。結論として、高校3年生のセンター対策学習の望ましい時間配分の比率は、読解5割、単語3割、リスニング2割程度ではないかと思えます。

((有)佐藤教育研究所代表)